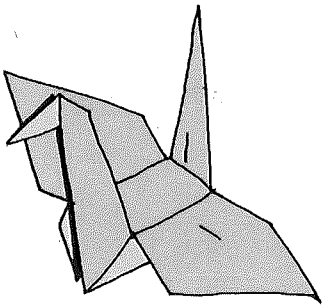


第２部

2005年度 我孫子市
戦後60周年記念平和事業の記録

主催事業、関連事業

戦後60周年記念平和事業の概要とスケジュール

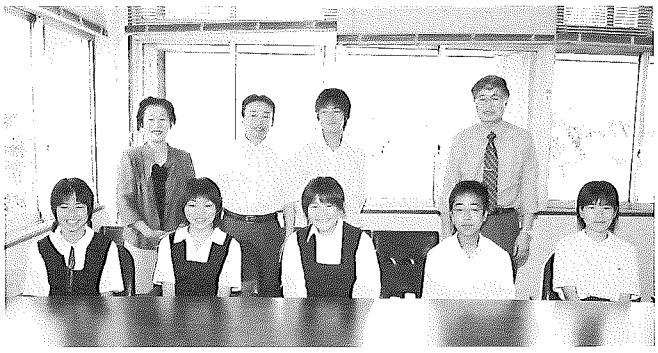
60年前の戦争や原爆の恐ろしさ、悲惨さ、世界で今なお続く紛争の現実を、市民一人ひとりが知り・学び、後世に伝える活動を自らが継続的に行う契機になればと願い、次の事業を行いました。

【我孫子市主催事業】

No.	事業名	開催場所	開催日
1	戦争に関する資料の展示 「戦争を知らない子ども達へ from あびこ」	市民会館	7月31日～ 8月28日
2	コンサート「地球のステージ」の公演	市民会館	7月31日(日)
3	市内中学生の広島市平和記念式典への派遣	―	8月5日～7日
4	映画「父と暮せば」の上映	市民会館	8月7日(日)
5	中学生、高校生、戦争体験者などによるリレートーク	市民会館	9月19日(祝)
6	広島市平和記念式典出席者による発表会		
7	紛争国における市民の暮らしをテーマとした講演会	市民会館	10月15日(土)
8	戦争に関する手記などの朗読会	湖北地区公民館	10月22日(土)
9	平和祈念コンサート		
10	大戦当時の食の再現		
11	朗読劇「この子たちの夏」の中学校での公演	我孫子中学校 湖北中学校	2月17日（日） 2月13日（月）
12	戦争体験者による学校での講演会	小学校6校 中学校1校	11月～3月
13	平和に関するビデオの学校での上映	小学校7校 中学校5校	11月～1月
14	戦後60周年平和事業記念誌の発行	―	―

【関連事業】

No.	事業名	開催場所	開催日
15	原爆に関する写真展	アビスタ	8月15日 ～28日
16	平和記念式典	手賀沼公園内 平和の記念碑前	8月20日(土)
17	朗読劇「この子たちの夏」の公演	アビスタ	
18	ミュージカル「バレンタインドリーム」の公演	市民会館	8月27日(土) 28日(日)
19	平和をテーマに「国際交流スピーチ大会」と「ユネスコ理事長による平和事業記念講演会」	市民プラザ	9月25日(日)

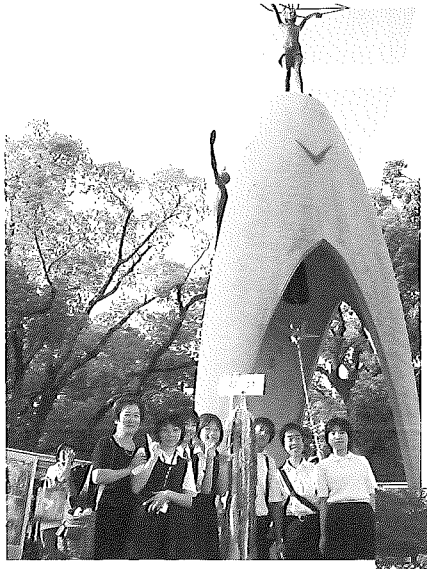


８月１日　市長に出発の挨拶

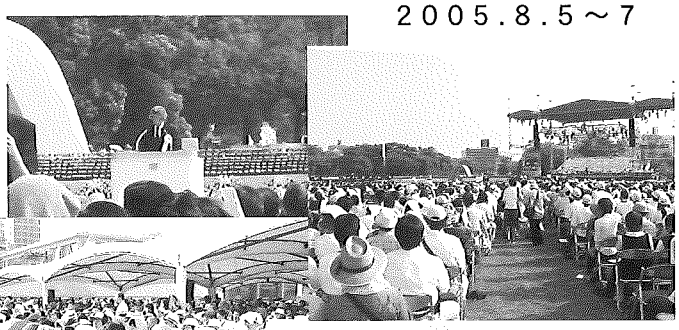
広島駅

市内中学生の
広島平和記念式典への参加

２００５.８.５～７



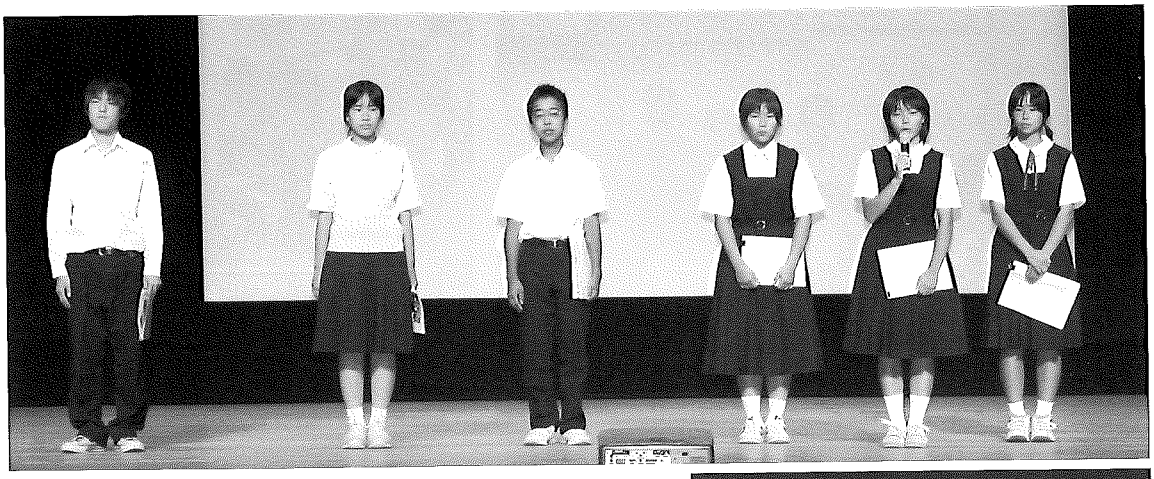
「原爆の子の像」前



平和記念式典

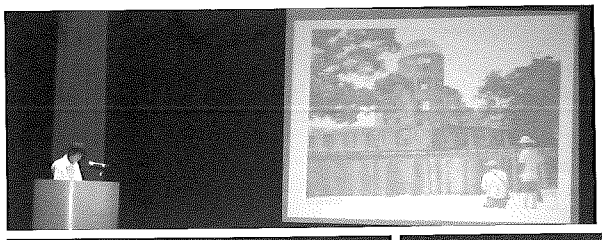
被爆体験者を囲んで

原爆ドームをバックにして



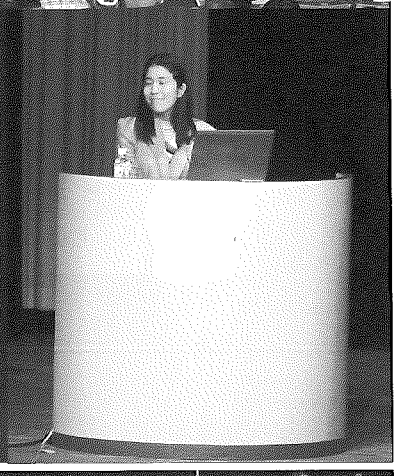
平和を語ろう
第１部　中学生による発表
第２部　リレートーク

２００５．９．１９　市民会館にて



「戦争と平和」講演会

２００５．１０．１５　市民会館にて

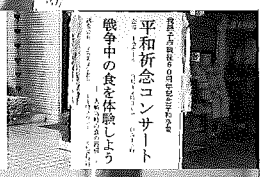


平和祈念コンサート・朗読

２００５．１０．２２　湖北地区公民館にて

大戦中の食を体験しよう
～大戦当時の食の再現～

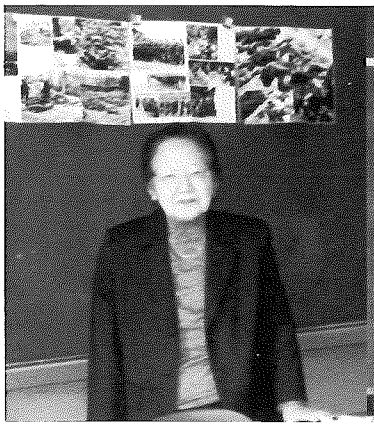
２００５．１０．２２　湖北地区公民館にて



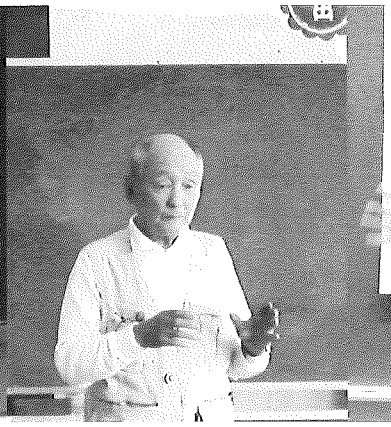
朗読劇「この子たちの夏」

２００５．８．２０　アビスタにて
２００６．２．１３　湖北中にて
２．１７　我孫中にて

戦争体験者による学校での講演会

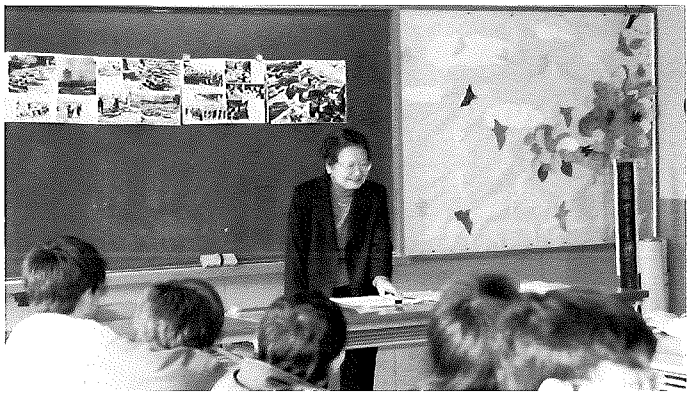


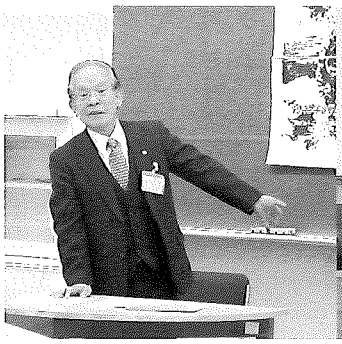
豊村美恵子氏



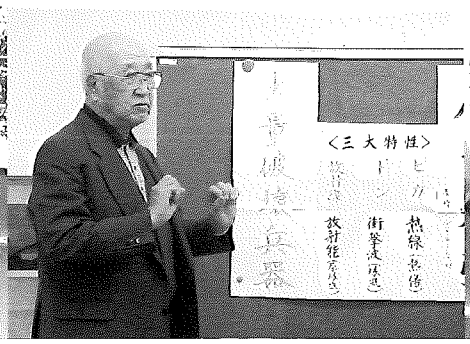
田中三也氏

中田澄子氏



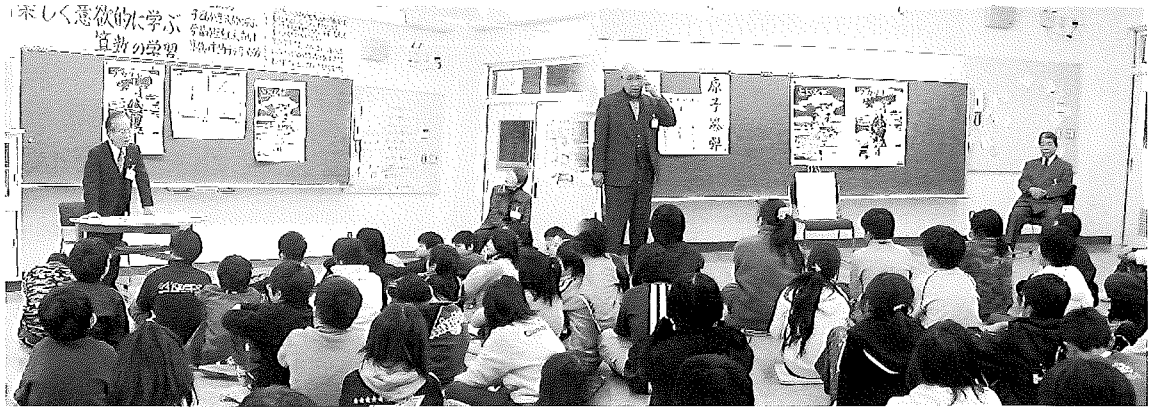


大久保明次氏



清水益雄氏

宮田将則氏

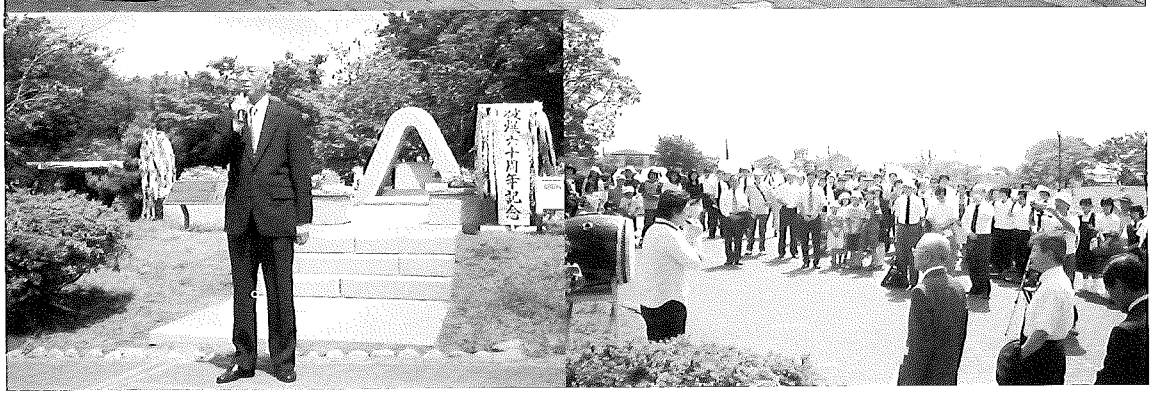


原爆に関する写真展

２００５．８．１５～２８　アビスタにて

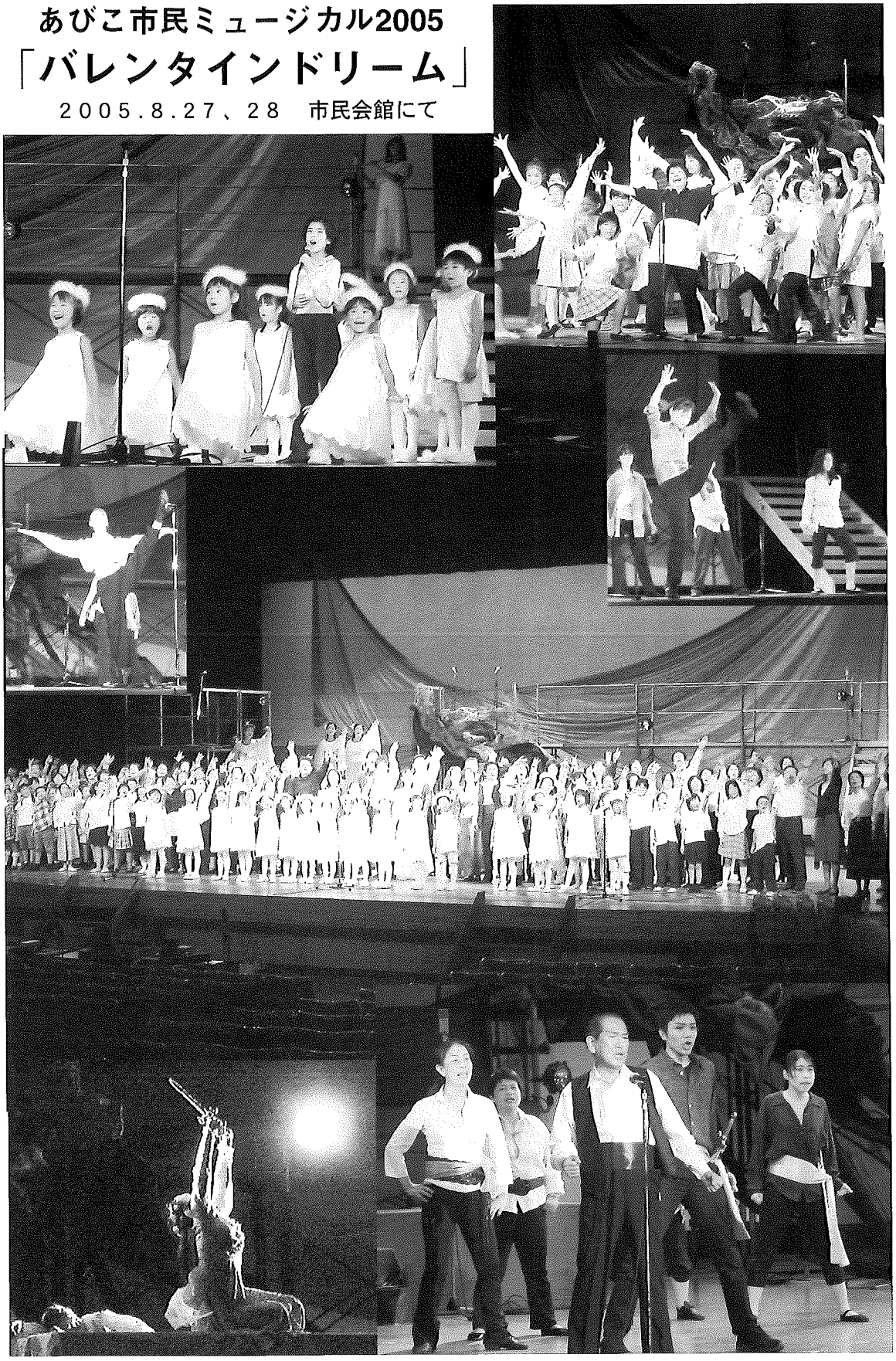
平和記念式典

２００５．８．２０　手賀沼公園にて



あびこ市民ミュージカル2005
「バレンタインドリーム」

２００５.８.２７、２８　市民会館にて



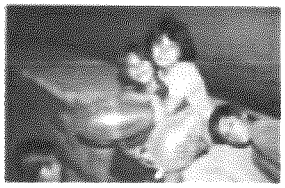
演題
本当の広島
平和をテーマにした
国際交流スピーチ大会
２００５.９.２５　市民プラザにて
第７回国際交流スピーチ大会
7th INTERNATIONAL RECITATION CONTEST
第７回国際交流スピーチ大会
7th INTERNATIONAL RECITATION CONTEST

我孫子市戦後60周年記念平和事業

地球のステージ

www.e-stageone.org

困難な中にあっても明るく、たくましく生きる
子どもたちの姿は、私達が
忘れてしまった何かを
思い出させてくれます。



世界の紛争地で活動する日本人医師。彼が現地で出会った人々への限りない愛情を込めてつづる、映像と音楽のステージです。

と　き	平成17年7月31日（日）　10:30～、14:30～の２回公演
ところ	我孫子市民会館ホール
出演者	桑山 紀彦氏（ボーカル・ギター・バイオリン）
入場料	一　般　５００円
	市内在住の小中学生　無料（整理券必要）

・市内の学校に通学する人は参加者を学級単位で取りまとめていただき後日、整理券をお届けします
・市外の学校に通学する人は我孫子市企画調整室に直接申し込みください

チケット販売：６月１６日（木）から

チケット販売所：荒井書店（天王台南口）ひろがり7184-1331
ミリオン旅路我孫子店（我孫子駅南口）7185-0311
東京堂書店（湖北駅南口）7187-1780
写真のおちあい（布佐）7189-1515

お問合せ　我孫子市企画調整室
電話番号　７１８５－１１１１（代表）
主　催　我孫子市

桑山紀彦氏プロフィール
精神科医。これまで５２カ国を歩き、ＮＧＯとしてフィリピン、ソマリア。東ティモール、旧ユーゴスラビアなどで国際医療救援活動を展開。

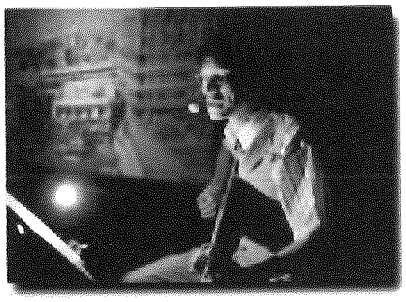
地球のステージ www.e-stageone.org　ご案内

◇地球のステージとは？

１９９６年1月１５日よりはじまった、
ライヴ音楽と大画面の映像、スライドによる語りを組み合わせた、
まったく新しいタイプの"未営利"「コンサート・ステージ」です。
世界で起きている様々な出来事を、講演形式ではなく、音楽と大画面のビデオ、
スライドをスクリーンに写しだし、語りと曲で構成していく「映像と音楽のシンクロ」ステージです。

◇内容は？

「地球のステージ１」ではインド、ケニア、スペイン、アラスカ、
南米などの「放浪篇」に始まり、フィリピン、ソマリア、東ティモール、
旧ユーゴスラビアなどの貧困、紛争地域の子どもたちの明るくたくましい姿を映し出します。



1	オープニング映像	「Stage on Earth」	
	放浪篇映像	「アメージング・グレース」	
2	放浪篇		
	南米篇映像	「地球の鼓」	オリジナル
3	フィリピン篇	「温ろう」	オリジナル
4	ソマリア篇	「黒の黒の涙」	オリジナル
5	東ティモール	「夢見る明を過ぎても」	オリジナル
6	旧ユーゴスラビア	「廃墟に咲く花」	オリジナル
7	ふるさと篇	「ねがい」	オリジナル
	エンディング	「故郷を踏る」	オリジナル

◇出演者は？

山形で精神科医をしている桑山紀彦がその案内役です。彼はこれまで52カ国を歩き、
国際医療救援活動を展開してきました。ＡＭＤＡ（アジア医師連絡協議会）、
ＪＥＮ（日本緊急救援ＮＧＯ）、そして地元のＩＶＹ（国際ボランティアセンター山形）に所属し、
ＮＧＯ活動をしてきた桑山の集大成がこの「地球のステージ」です。現在はNPO法人「地球のステージ」代表理事として活動中です。
そして、舞台下手には、ピアノ、シンセサイザーを担当する石橋優子が位置します。

コンサート「地球のステージ」の公演

事業の概要

市内在住・在学の小中学校生を主な対象とし、紛争や貧困の国々の中でもたくましく生きる子どもたちの姿を、桑山　紀彦氏に語りやライブ音楽、映像で分かりやすく伝えていただきました。

平和に過ごしている私たち日本人と同じ地球上に生きていながら、紛争や貧困により日々の生活に困窮している人々の暮らしが現実にあることが伝えられ、平和の尊さや大切さを実感できるステージとなりました。

開催にあたっては、一人でも多くの子どもたちが鑑賞できるよう、バスによる送迎を行いました。

開催日時：平成 17 年 7 月 31 日（日）①10:30～　②14:30～　の 2 回公演
開催場所：市民会館ホール

参加者の声

・今の国の状態や、戦争のことなど、わからなかったこともとてもよく分かった。
・戦争や貧しさの中でも、一生懸命に生きている子どもたちの姿に感動した。

市内中学生の広島市平和記念式典への派遣

事業の概要

市内６中学校から、各校１名の代表生徒を選出し、広島市の平和記念公園で開催された平和記念式典へ自治体（我孫子市）代表として派遣しました。

式典への参加や平和記念資料館の見学、２日間にわたってお聞きした被爆者体験証言グループの方の被爆体験談などで、広島の原爆のすさまじさや恐ろしさを学びました。また、みんなで持参した千羽鶴を献納するとともに、夜間には、灯ろう流しに参加して、生徒たちが平和の祈りを書きつづりました。

各校に戻った生徒たちは、それぞれの学校で報告会を開き、各人が感じ取ったことを発表しました。

この事業には、広島市での被爆者体験証言グループの調整など、現地での活動の多くに、我孫子市で市民活動をしていた田村国昭氏（広島市在住）のご尽力をいただきました。

実施期間：平成 17 年８月５日、６日、７日
開催場所：広島市平和記念公園　他

原爆の地「広島」を見てきた中学生のレポート

８月６日が教えてくれたこと

我孫子中学校　２年　木村　友美

原爆記念資料館に展示された８時 15 分を指して止まっている懐中時計。この時計が、原爆を落とされたという事実と恐怖の全てを物語っているかのように見えました。遠目では、一見ただの黒ずんだ時計でしたが、間近で見ると縁や針が異様に溶けていました。私は、これをつぶさに見て、原爆にはどれだけの威力があったのか、また、時計を持っていた人はどうなってしまったのかという思いで心が沈み、しばらく時計の前から動けなくなってしまいました。しかし時計が現在まで残ったのは、やはり原爆のことを後世の人が忘れないで、伝えているためだからではないかと感じました。その時計は、見た人に「原爆のその時」を訴えかけてきています。

資料館には、実に多くの資料が保存されています。原爆の模型や原爆が落とされる前と

後の爆心地の様子(写真)などもあり、数ヶ月たった今も、はっきりと覚えています。資料館の外、記念公園には、60年前の様子はほとんど残っておらず、とても原爆が落とされたとは思えませんでした。しかし、原爆ドームだけは違いました。当時のまま残っているからです。そこだけ空気が違う気がして、不思議な気分になりました。

それは記念式典の時も同じでした。とても厳粛な雰囲気で、何万人もの人がいるのに、驚くほど静かでした。テレビで式典を見ていたという友人も「市長の話の時、水を打ったような静けさだった」とびっくりしていました。この市長の平和宣言の中の話は次のようなものでした。世界には核保有国がいくつもあり、過ちが繰り返される恐れがあること。そして、それを止めるために政府は何をしているか。最後には、原爆犠牲者への哀悼の言葉などです。

式典当日は、じっと座っているのが辛いほどの暑さでしたが、集中して臨むことができました。この、市長の平和宣言は、今も繰り返し私の心に響いています。

今回の戦後 60 周年記念平和事業に参加して、もう一つ心に残ったことは、一緒に参加した中学生の皆さんのことです。初対面の時は、「どんな人達なのだろう」という不安ばかりでした。しかし打ち合わせなどで話す回数も増え、出発の日にはすっかり、そんな不安は消えていました。帰路では、この人達と一緒に参加できて良かったという思いで一杯になりました。いい人達に会えて本当に良かったです。これからも、たくさんの人達との出会いを大切にしたいと思います。これも日本が平和と言われているから可能だったのだと感じました。

しかし本当に平和なのでしょうか。日本と、中国や北朝鮮との複雑な関係。世界に目を向けてみれば、内紛やテロによる事件が至る所で起こっています。このような事件が自分の身近に起きている小さな人間関係のトラブルがきっかけになり、平和が崩れ始めることがあるのではないか。あるいは、小さなきっかけが大きな争いの元になっているのではないかと考えるようになりました。つまり、私の平和に対する見方が一回り大きくなったのかもしれません。

今回の広島での体験を生かして、まずは自分のまわりに、この「平和」についての考えを伝えていきたいと思いました。また、いじめが原因による自殺や友人関係のゆがみからの同級生の殺人など、事件の低年齢化が進んでいますが、生きたくても、たった１つの原爆で、無抵抗のまま命を落としていった、たくさんの人達のためにも私たちは生きなくてはならない、「平和」のためにも原爆のことを後世に伝えていかなくてはいけないと思いました。

私の言葉で伝えたい

湖北中学校　３年　今井　瑞萌

我孫子市が主催する、戦後 60 周年記念事業の一環として、広島平和記念式典へ市内の中学生を派遣する視察体験が計画されました。そこで私は、湖北中の代表として参加することになったのです。

私が、現在の広島市に足を踏み入れてまず感じたことは、本当にこの地に原爆が投下されたのだろうか…ということです。60年前のあの瞬間、そこに存在していたほとんどの物が消え去った場所。当時、70年間草木は生えないだろうと言われていた広島。しかし、現在では緑がよみがえり、市街地の近代化も進み、何よりも平和な時間が流れていました。そんな状態まで復興していたのです。そこには、沢山の人達の苦労があったのだと思いました。

私が、今回の視察体験で一番心に残っていることは、被爆者の方々のお話を聞くことができたことです。被爆体験証言グループの幸元さんから、あの日に被爆した青桐という木の下で体験談を聞かせていただきました。幸元さんは、小学校２年生の時に原爆の被害に遭われました。家があったはずの場所には崩れた木材だけが残っていて、家族が中にいるのかさえわからない状態だったそうです。また少し先まで行くと、とても人間とは思えない、皮膚の垂れ下がった、まるでお化けのような物体が駅に向かって歩いていたそうです。

幸元さんは、「現在も世界のどこかで戦争が行われているが、原爆を使うようなことが絶対にあってはならない。皆さんには、常に平和を願い、戦争の悲惨さを次の世代にも伝えていってほしい。」と、強くおっしゃっていました。当時のつらい思い出を、あえて振り返りながらお話をされている幸元さんの口元が、小刻みに震えていたことを私は今でも忘れることができません。

また、同じグループの山崎さんは、17歳の時に自宅から1.5kmの学校で被爆したそうです。「これから話すことは、全て私がこの目で見たことです。」と前置きをしてから話を続けられました。山崎さんの家は、現在の平和記念資料館の入り口辺りにあったそうです。しかしその場所には、家はもちろんのこと、人も、草１本もなかったそうです。原爆が落とされた後、現在平和公園がある場所には犠牲となられた方々が山のように重ねられ、とても悲惨な光景だったそうです。更に次の日には、その死体にウジがわき、辺り一面が真っ白になり、この世の出来事とは思えなかったそうです。

山崎さんがお話している間に、何度も繰り返されていた言葉は「原爆は、家・人・草・木…その土地のすべてを、大切なふるさとまでもなくしてしまうんですよ。だから、人間

は原爆を使ってはいけない。」「私がこれまで生きてこられたのは、私を支えてくれる友達がいたから。皆さんも、友達を大切にして生きて下さい。」ということでした。私は、この「友達を大切に！」という言葉がとても心に残り、「自分と友達が、お互いのために助け合いながら生きていけるといいな。」と強く思いました。

日本に戦争の悲惨さを知らない子供が増えてきている中、私はとても貴重な体験をさせていただきました。被爆体験者の方々からお話を聞いたり、資料館の展示物を見ることで、原爆のもたらした悲惨な状況を実感し、「自分達がこの先、戦争があったという事実を伝えていかなければ」と思うようになりました。

未だに地球上では、争いが数多く起こっています。また、アメリカや北朝鮮などのように、核兵器を保有している国が沢山あるのも事実です。しかし、その核兵器を使用した場合、たくさんの犠牲者が出る事はわかりきっています。日本は唯一の被爆国であり、私達日本人は核兵器の恐ろしさを身をもって感じています。私は、これ以上このような悲惨な状況を繰り返さないよう、次の世代に語り継いでいく義務があるのだと痛感しました。“平和な世界がいつまでも続きますように！”これは、人類共通の願いだと思います。

平和な世の中へ

布佐中学校　２年　杉本　美幸

私は、広島市平和60周年記念式典に、我孫子市中学生代表として出席させていただき、他にも平和資料館見学や被爆体験者のお話など、貴重な体験をさせてもらいました。

資料館は、原爆投下前、投下後の模型や爆弾を落とした飛行機から撮った写真、爆弾の実物大模型など、当時の状態がありのままに再現されていました。ほんの前まであった町並みが一瞬にして消えてしまったのでした。その悲しさ、悔しさ、恐ろしさは計り知れないものだったでしょう。その中でも、被爆した人のロウ人形模型がとても印象に残っています。焼けただれ、服も燃えてボロボロで、服を着ているという状態ではありませんでした。今、被爆され生きている人々は、そんな残酷な記憶を持っています。

無論、現代を生きている私達には想像を絶する経験だったでしょう。幸元さん、山崎さんという、2人の被爆者の方にお話を聞きしました。投下されてすぐのことは意識がなく、覚えていないそうです。でも、意識が戻ってからの記憶はしっかりあるそうで、昨日まであった死体が今日になったら無くなっている。そんな日があったそうです。うじ虫が１日にして湧いてしまい、しかも生きている人にも湧いていたそうです。青い火のたまも見え

たそうです。それは、死体が焼け、骨に含まれているリンが燃えたことによってできたそうです。そんな状況の中、山崎さんは薩摩芋を食べたり、米軍により毒が撒かれたと言われた川の水を飲んでいたそうです。なぜ、山崎さんは薩摩芋を食べることができ、毒が入っていると言われた水を飲んだのでしょう。それは、薩摩芋が学校の校庭で作られていたことを、川の水が海へ流れていて毒も流れていったことをきちんと分かっていたからです。その地をよく理解していたからそんな行動ができたのでしょう。しかし、生き残った山崎さんには里帰りできる「故郷」がありません。故郷をよく知っていたから生き残れた。けど、故郷はなくなってしまった。「みなさんは、今ある故郷を大切にしてください。」という言葉に胸がいっぱいになりました。

産業奨励館。それは広島の原爆ドームのことです。原爆が落とされる前までは、産業奨励館として、その昔には美術館などとしての役割も果たしていました。原爆ドームと名付けられたのは原爆が投下されてからのことです。爆心地に一番近い建物として残りました。原爆の苦しみ、悲しみを二度と繰り返さぬ象徴となりました。しかし、60年たった今はどうなっているでしょう。世界の国には内戦などの争いが続き多くの人が犠牲となっています。日本は、世界でも珍しい「非核三原則」を持ち「非核国」の象徴とされています。そんな日本も、今はどこかの国との間で争いが起きてもおかしくない状態になっています。

こんな時こそ「平和」が求められているのでしょうが、平和とは一体なんなのでしょう。「平和」とはなにかと聞かれると、「平和は良いこと。世界を平和にしよう」など、たくさんの人がこう答えると思います。事実、回答には正しい答えなどはありませんが、私もそのように思っていました。しかし、「平和は良いこと、世界を平和にしよう。」これは私達が解決できる回答でしょうか？事実、争いのある国に行き、争いを止めようとする人は、ほとんどいません。私も平和を願う一人ですが、どうしたらよいかわかりません。

だけど、山崎さんのお話を聞いて本当の平和というものを教えてもらいました。「平和な国にすることは、私達の力では無理です。平和を望むのなら友達を大切にしてください。友達がいれば生きて行かれる。それが本当の平和」と教えて頂きました。原爆を体験し希望を失った山崎さんは、学童疎開で出会ったある一人の友達のことを思い出し、一人だけど生きていこうと思ったそうです。この事実を知り、本当の平和とは何か、自分でできることは何かということを知ることができました。そして、友達を今まで以上に大切にしていこうと思いました。

本当のヒロシマ

湖北台中学校　３年　綿引　康一

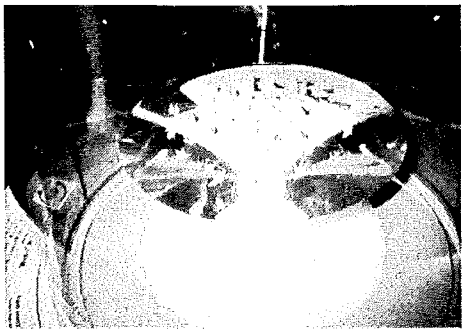
８月５日、東京駅についた僕は胸が躍っていた。初めてヒロシマへ行けるからだ。学校で習った詩「水ヲ下サイ」と「永遠のみどり」に書いてあった通りのことがヒロシマにあったのだろうかと最初は半信半疑だった。

東京から約４時間、ヒロシマの駅に降りた。僕は本当にここがヒロシマかと思ってしまった。ほとんどが近代的だったからだ。こんなに驚いたのも、実は、行く前はもっと古い物があって、そっちに驚くということを想定していたからだ。

駅に着いた後に行ったのは、僕が期待していた広島平和記念資料館だった。まさにそこは、僕が考えていた通りの場所であった。広島の誕生から軍都ヒロシマ。そして原爆が落とされるまでの年表は、今まで知らなかったことばかりだった。そのまま進んで行くと、あの有名な「時を止めた時計」があった。あんな小さな時計が原爆から逃れ残っていることに小さな感動を覚えた。

途中のミュージアムショップを過ぎると、この写真があった。原爆が落ちた後にとった写真の中の１枚というが、これ以外にほとんど残っていないという。そのとなりには、数々のきのこ雲の写真があったが、となりのこの写真に目がいきあまり見ることができなかった。

その後に続いたのは、「熱線による被害」「爆風による被害」「放射線による被害」であった。その中でも印象に残ったのは、禎子さんの祈り鶴である。今まで僕は禎子さんという人さえ知らなかった。しかもこの人があの平和の子の像のモチーフになっていることも知らなかった。



１日目が終わり２日目、８月６日、この旅の目的、平和記念式典へ参加した。市長さんの言葉、子ども代表の言葉は今でも忘れることはできない。そして、あの鳩が飛び立つところは目に焼き付いて離れない。

この２日間（正確には３日間）の間に、２人の被爆者の方から話を聞くことができた。どちらの話にも共通することは、恐ろしい、この世のものとは思えないということであった。その言葉の中でも僕の心に残ったのは、「皆さんも友達を大切にしてください」という言葉である。

今回の広島への派遣でさらに僕の平和への願いが強まったと思う。今回の経験を生かし学校の皆へ、平和への願いを広められたらと思う。

戦後六十周年に思うこと

久寺家中学校　２年　田中　麻理沙

去年の夏、私は我孫子市の平和事業に参加し、市内の他の中学生たちと共に広島を訪れた。

都会。初めてその街並みを見たとき、そう思った。出発前に読んだ原爆の資料がとても強烈だったため、私はもう少し暗い雰囲気の街を想像していたのだ。

私たちは、実際に60年前の広島で被爆された方々のお話を聞くことができた。・・・・・・原爆が投下された直後の衝撃。一瞬にして生き地獄と化した広島の街。死体や傷口からわき出たウジのせいで、真っ白になるあたり一帯。皮膚がただれ落ちた幽霊のような姿で、ただひたすら肉親を探し歩き続ける人々。家族・友達・故郷を失った悔しさ、悲しさ。被爆者自身の想いがこちらにも伝わり、何とも言えない気分になった。

60年前のここは死体と瓦礫だけの街だった。その言葉に改めて周囲を見回してみる。広島の人々の 60 年間は、やはりこの街並みに一番よく表れているような気がした。何十年も不毛の地となると言われたこの土地で、ずっと復興を続けてきた広島の人々。彼らは60年前のあの日から、ずっと平和を願い続けているのだ。「二度とあの悲劇が繰り返されることのないよう。私たちの今日の話を、どうか語り継いでいって下さい。」何度も言われた。

それなのに今も世界では戦争が起こり続け、武器などの技術も進歩し続ける一方である。驚いたことに今の核兵器を一発地球上に投下すれば、単純計算でそれは世界中の人間を全て殺し、まだ威力の方が上回ることになる。こんなことがあって良いのだろうか。

私は戦争や原爆について調べて、たくさんのことを学んだ。一番に感じたのは、人間の愚かさである。ごくごく一部の人間の、僅かな間の利益のために、たくさんの人が死に、たくさんの憎しみが生まれる。憎しみは連鎖し、争いはどんどんひどいものになっていく。幸せになれる人なんていない。戦争は憎しみや悲しみしか生まないのだ。

その後私たちは平和記念資料館を訪れたが、それは被爆者の方から直接伺ったお話に比べると、少しばかりまとめられすぎかなという感じがしてしまった。それに、あまりにも人が多かったのもあるだろうが、団体見学者の中には横で遊び出す中高生もいたし、平和記念式典の最中に爆睡している人もいた。何ともひどい光景である。

今回の経験を通し、平和な世界を実現させるために、まずは私たち日本人が、戦争や原爆についてもっと知るべきだと感じた。唯一の被爆国である日本だが、そこに住む私たちの中でさえ、悲劇は忘れ去られようとしている。このままではいけないのだ。原爆や戦争、日本のこと、世界のことについて、まずは知ること。漠然としすぎている平和の尊さに気づき、後の世代へ、世界へと、語り継いでいかなければならないのだ。

皆が平和を望めば争いは消える。とても単純なことだが、何より大事なことだ。戦争は、決して他人事ではない。

世界についてもっと知り、具体的に私には何ができるか、考えながら生きていきたい。

「広島で学んだ事」

白山中学校　３年　横山　耕介

昨年の８月、私は我孫子市の「戦後60周年記念平和事業」の一環として市内６校の中学生代表（各校１名）に選ばれ広島へ行かせていただきました。

私は今まで戦争というものに興味があまりありませんでした。しかし、実際に広島へ行かせていただいて、平和記念式典や、灯ろう流しに参加させていただいたこと、平和記念館の中にある写真、原爆の威力を物語ったようなもの、皮膚の爛れた人の人形などを見学したことで、改めて戦争の恐ろしさ、戦争のつらさ、平和の大切さを知りました。また、自分がどれだけ戦争について真面目に考えていなかったか！という事がわかり、戦争についてじっくりと考えられる良い機会になりました。

私たちは今、【平和】というものが当たり前になってきていて、戦争を全く知らない世代がどんどん増えつつあります。もし戦争を知らない世代だけの世界になってしまったら、また戦争が起こってしまうかもしれません。戦争で被害を受けるのは人々（市民）ということ！戦争とは人間を兵器にしてしまうということ！を現代の世代から新しい世代へと伝えていかなければならないと思います。そして一人ひとりが現実に起こっていることをしっかりと理解していく必要があると思います。争いごとは武力では決して解決する事ができません。先日のリレートークの中でもお話ししたのですが、こちらから伝えようとして

も、その人が真面目に受け止めてくれるか、考えてくれるかによって変わっていくと思います。伝えていくだけでは今と何も変わらない！人と人とが平和について真剣に話し合っていくことで平和な世界を創っていく第一歩を踏み出していけるのだと思います。

また、私の心の中には被爆体験証言グループの幸元さん、山崎さんからのお話はとても印象的で心に残っています。特にその中でも「戦争は故郷をなくしてしまう。」「友を大切にしていってほしい。」という言葉には本当に衝撃を受けました。この言葉を聞いた時は、私も本当に自分の故郷、そして友達を大切にしていこうと思いました。

【歴史】とは、現代に生きる人々、明日を生きる人々の【平和】を創るためにあるのだと思います。戦争を体験した人も戦争を全く知らない人も、改めて歴史を振り返り「戦争はもう二度と繰り返してはいけない」ということを再確認、または知ってもらいたいと思っています。戦争をするのも人間、そして平和を創っていくのも人間です。戦争で幸せになる人は誰一人いません。手に入るのは憎しみや悲しみだけです。

そして私は最近「今、日本は本当に平和なのだろうか？」と思い始めています。毎日のようにニュースでは色々な事件が起こっています。これでは平和とは言い切れないと思います。生きている人々が笑顔で生活できるような世界がきたとき、ようやく平和と呼べるのだと私は思います。

今回の広島へ行かせていただいたことは私にとって大変有意義なことであったと思っています。このような機会を与えてくださって本当にありがとうございました。

最後に、「皆さん、真剣に【戦争】【平和】について考えて下さい。」今回書かせていただいたこの文を読んで、ほんの少しだけでも興味をもっていただけると嬉しいです。

我孫子市主催　戦後六十周年記念平和事業

「映画上映」０４年度日本映画ペンクラブ賞・日本映画ベスト１賞受賞作品

黒木和雄　宮沢りえ　原田芳雄　浅野忠信

日　時：平成１７年８月７日（日）２回上映
　　１回目　午後１時 30 分上映（午後１時開場）
　　２回目　午後４時上映（午後３時 30 分開場）
場　所：市民会館大ホール
参加費：700 円（小・中学生 400 円）
チケット販売所（７月１日から販売）
　　市民会館売店ひろがり、荒井書店、ミリオン楽器我孫子店、東京事務器、写真のおちあい、市役所企画調整担当
問合せ：我孫子市役所 企画調整担当 04-7185-1426

映画「父と暮せば」の上映

事業の概要

広島の原爆投下から３年、生き残った後ろめたさから幸せになることを拒否し、苦悩の日々を送る美津江（宮沢りえ）。

父の竹造（原田芳雄）に励まされ、悲しみを乗り越え、未来に目を向けるまでの４日間の物語。

ヒロシマの悲劇を描きながら、広島弁の父娘の会話には心が和む。「最悪の状況下でも、人間は常に未来をみている」原作者井上ひさしの思いが描かれた感動の映画を２回上映しました。

開催日時：2005年８月７日（日）午後１時30分～、午後４時～　２回上映

開催場所：我孫子市民会館　大ホール

アンケートの結果

【小学生：女】お話がよくわからなかったけど、ヒロシマには、すごいばくだんがおとされたんだな。でも、もう平和になったからよかった。わたしと、言葉がちがうから、聞きとって、あんまり、りかいできなかった。

【小学生：女】「やっぱり戦争はやってはいけないことなんだな」と、この「父とくらせば」をみて、あらためて思いました。

【17才：女】世界の人々が平和な中でくらせればと思います。「戦争はあってはならない」とわかっていても理解はできていなかった。広島のことも「ヒドかった」としかわからなかった。今回映画をみてどんな様子だったのかとかもわかり、人から言われて思うんじゃなく心から戦争はあってはならないと思えた。

【20代：女】この「父と暮せば」はこまつ座の公演で知り、大学の授業でも扱われていました。大学の講師が井上ひさしさんと友人だということで、この脚本について詳しく知る事ができました。去年（？）東京でこの映画を見ましたが、やはり素敵な脚本です。いつしか美津江役を舞台でやってみたいと思ってます。広島弁難しいですよね。この作品で宮沢りえさんが女優賞とったのも何だか嬉しかったです。こまつ座の公演もまた観たいです。早くDVD化してほしいです。とても良い企画です。また宜しくお願いします。

【20代：女】今年祖父を亡くし、身近な人から戦争について直接聞くことは出来なくなりました。実際には、思い出したくないからと語ることを拒む方も多くいらしゃるかと思います。戦争を知らない世代にメッセージを発信するという、点からも今回の平和事業は高い評価を得られるものだと思います。

【30代：女】はじめは、宮沢りえ出演と言うことで「父と暮せば」という映画を観たいなと思い、岩波ホールで上映している時観に行こうと思っていたのですが、結局行けなくて残念に思ってい

ました。しかし、話の内容は全く知らずにいました。舞台の招待券が当った事がきっかけではじめてその内容を知った時、かなりショックを受け、やはり映画も観ておきたいと思っていたところ、自分の住む我孫子で上映があると知り絶対に行こうと思い足を運びました。ありがとうございます。自分は戦後生まれなので、本当に体験した方の気持ちなど理解はできないとは思いますが、生きることの大切さを少しでも感じる、普段は忘れてしまっている事を思う時間をこれからも与えて下さい。

【30代：女】小学生の娘と来ました。講演等と違い、映画なら子供でも解りやすいかと思います。とても良い映画でした。またこのような機会がありましたら来てみたいです。

【40代：女】今日は１人できましたが、友人・知人・家族に是非この映画をみてもらいたいと思いました。「戦場のピアニスト」みて以来の重い気持ちになりました。いい映画を企画・上映して下さってありがとうございました。

【50代：男】戦争の理不尽さの犠牲になること。その当事者の受ける心の苦しみがどれだけ複雑で救い難いものであるかが、ひしひしと伝わってきました。そこから立ち上って再生を目指すことが、キレイごとではなくいかなる葛藤を経るものかを考えさせてくれました。こういう企画に参加させていただきありがとうございました。

【50代：女】とても良い企画でした。有難うございました。私はこのお芝居も映画も見ましたが近い場所で安価な料金で再び鑑賞出来たのはありがたいです。観客がもっと多いことを想像していましたが若い人たちが少なく少々残念でした。

【50代：女】柏市の広報で知りました。本を読んだばかりで映画を観られるのはうれしいです。今年は戦後60年ということでテレビなどでいろいろと、今までにない視点から特集を組んでいて初めて知る事実など興味深く考えさせられることが多いなか近隣にこのような映画を実施して下さりありがとうございます。

【60代：男】井上ひさし氏の「父と暮せば」は核兵器の恐ろしさと被爆者の苦しみ悲しみを全世界の人々に訴える映画として意義深い映画であり、我孫子市の平和事業としてとても良かった。

【60代：女】味わいのある映画で良かった。被爆者の多くの人が、様々な理由で生き残っていることに、罪の認識を感じているということを、本で読んだりするが、死ぬも地獄、生きるも地獄・・・・。非核三原則はきっちり守らなければと感じた。子供たちに次々と伝えていかなければいけないとも・・・。

【60代：女】広島にたまたま縁のあった人たちの不幸をあらためて思いをいたしました。多くの人たちの犠牲の上にある今の幸せ、自分１人の幸せだけを願うのではなく、人の為　国の為を願う人間でなければいけないと思います。国あっての個人の幸せであることを忘れてはいけないと思います。

【70代：男】昨夜の花火大会を見に来た中学生の孫と来ました。戦後60年、孫より小さい年で集団そかいをした当時をしっかり話してあげました。花火と映画よい催しでした。生きていかなければ、人々の平和のために。

【70代：男】戦争を知っている者として、戦後60年という節目に、過去の苦しい時代を回想することは意義あるものと思う。